

## 第10回まちづくり市民協議会会議録

日時：令和5年3月28日（火）18時30分～

会場：光市役所3階 大会議室1・2・3号

出席者 委員 23名（欠席 13名）  
事務局 6名

### 1 市長あいさつ

大変お忙しい中、皆様に出席を賜り御礼申し上げます。今回、3月31日で皆様の任期が終わるということで、これまで大変お世話になったことに感謝申し上げます。

思い起こせば、2年半前に新型コロナウイルスが拡大している中で、皆様方に委員にご就任いただき、1年半かけてこの「ゆたかな社会」（第3次光市総合計画）を作るためにご尽力をいただいた。改めて心より感謝申し上げます。

昨日、光高等学校が、残念ながら敗退はしたが、甲子園の1回戦に勝ったということで、もう1回勝てばベスト8というところまでいった。この光高等学校の躍進により、光という名前が全国津々浦々に轟きわたり、素晴らしいことであった。皆様と共に、夏の大会に期待をしたい。

ところで、現代社会について見てみると、ブーカ（VUCA）の時代と言われている。ブーカの時代とは、変動性（Volatility）、不確実性（Uncertainty）、複雑性（Complexity）、曖昧性（Ambiguity）の頭文字をとった造語である。ブーカについて調べてみたところ、変動性は、例えばITをはじめとする技術の進歩により世の中が変わったこと。不確実性は、新型コロナウイルスの発生や地震、台風、線状降水帯など予想が困難な時代であること。複雑性は、先進国においては少子高齢化が進む一方、発展途上国においては人口爆発といった問題が起きていることやロシアのウクライナ侵攻などにより世界が分断されているというようなこと。さらには、私たちが当然と思っていた民主主義とは一体何かというものが問われている時代であること。そして、曖昧性は、変動性、不確実性、複雑性が合わさって、何が起ころうともおかしくない時代であるということ。以上のように分析されていた。

では、こういう時代に、私たちの市民生活を守るためには、どのようにすればいいのかという問題が重要になってくる。

一番は、私たちのまちづくりのビジョンを明確にすることが第一であると考えている。ビジョンを明確にしなかった場合、何か起こった時にその場限りの対応になってしまう。今の私たちは、「ゆたかな社会」というビジョンを皆様方と共に明確にさせていただいた。しかしながら、明確にするだけではまちづくりは進展せず、市民の生活は守ることはできない。ではどうするかというと、後ほど報告があるが、市民アンケート等で常に市民の皆様へのニーズは何か、社会の変化が市民生活に与えた影響は何かを課題として抽出し

て、それを解決していく道筋を作るという基本的なことが必要であり、令和5年度も引き続きやっていきたい。

そして、SDGs、脱炭素、ゴミの減量など喫緊の課題にも取り組まねばならないが、ここで重要なのが、市民の皆様とのコラボである。役所の人間は、どちらかというに変化に弱いところがある。一方で、市民の皆様の、法律や条例、規則を知らないという状態が、自由な考え方やアイデアの源泉となると信じている。

私たちは、どんな変化があっても新しいことにチャレンジしていく意志を明確に持たなければならない。どんなに世の中が変化しようとも果敢にチャレンジしていくことを私は「新しい市民力」と呼びたい。左手に総合計画、右手に新しい市民力を携えて、市政を前へ前へ進めていきたい。それには、先ほど申し上げたように、市民の皆様とのコラボが重要であり、皆様方はトップランナーとなって市政に大きなお力添えをいただきたい。

本日は、周南公立大学から赤木先生にもお越しいただいており、感謝申し上げます。赤木先生の講演をはじめとして、有意義な会となることを願っている。

委員の皆様方からは、是非とも忌憚のないご意見をいただきたい。

## 2 会長あいさつ

本日はお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。第7期光市まちづくり市民協議会委員の任期も今回の会議で最後となる。本協議会の使命は、第3次光市総合計画の策定に向けて、まちの様々な課題や意見を行政に届け、まちづくりの方向性を提言していくことであった。そうした本協議会の任務を2年半にわたり、無事に遂行できたこと、まずは皆様にお礼と感謝を申し上げます。

さて、先の光市議会で、市長が施政方針演説の中で「20年後のまちのイメージを第3次総合計画にお示ししており、市民の皆様から頂いた様々なご意見や『まちづくり市民協議会』で熟議いただいて策定したこの総合計画は、いわば、市民の皆様の夢や願いを詰め込んだ、本市の未来の姿である。」と言われていた。この言葉を聞き、一昨年来、委員の皆様と一緒に、本市の魅力や課題の洗い出しを行ったワークショップでの出来事や光市の未来について、遅い時間まで皆様と話し合ったあの日々がよみがえってきた。そして、私たちの様々な思いや意見がこうして総合計画に盛り込まれ、ふるさと光市のまちづくりに少なからずも役に立てた事に、改めて喜びを感じている。

本日の会議では、周南公立大学より赤木先生をお招きし、これからのまちづくりについて、ご講演を頂けることとなっている。私たちの委員任期は残り僅かとなったが、本日の先生のお話を聞き、学び、そして、それぞれが所属する団体や地域活動における今後の取組に活かしていきたい。

## 3 議題

### (1) 令和4年度まちづくり市民アンケートの結果について

事務局より資料に基づいて説明

(2) 第3次光市総合計画行動計画（令和5年度～令和7年度）について

事務局より資料に基づいて説明

(3) 令和5年度予算の概要について

事務局より資料に基づいて説明

#### 4 講演

周南公立大学経済学部ビジネス戦略学科赤木真由先生より「これからのまちづくりに求められること」と題し講演

#### 5 その他

##### ○ 議題（1）～（3）についての質疑応答

###### ●委員

まちづくり市民アンケート報告書について、調査の中で年代別の回答データがあるのか。例えば、報告書6ページの今後の居留意向で「ずっと光市で暮らしたい」という人が66.2%であるが、2ページにあるように回答者のうち60代以上の人が55.7%であるので、「ずっと光市で暮らしたい」と回答した人がどの年代の人なのかが気になった。他の設問も同様に年代別の回答があればよいと思うが、公開しているのか。

###### ●事務局

年代別の回答については、結果報告書ではお示ししていないが、内部的には確認をしている。今後の居留意向やまちへの愛着などは、やはり長く住んでいる人ほど愛着が強まるという傾向があるため、50代以上の方々について居留意向が高くなる傾向があり、一方10代、20代は今後の進路などもあり他の年代に比べて居留意向は低い傾向がある。

###### ●委員

データをどう見るかという点が、今後の対策につながっていくのだと思う。

もう1点、報告書の26、27ページの重要度の状況で、「市政への市民参加の推進」の重要度が策定時よりも下がっていて、尚且つ、満足度も下がっている。このまちづくり市民協議会委員の名簿を見て、公募の委員が多いことに驚いているが、なぜこのように公募委員が集まってくれる市であるにもかかわらず、「市政への市民参加の推進」の重要度、満足度が低くなってしまったのか。この結果に対する市の考えがあれば聞かせてほしい。

###### ●事務局

「市政への市民参加の推進」の結果については、今回の結果報告書だけでは読み取れないが、例えば平成27年度の重要度の値は55%で、概ね50%台を推移しているという状況である。微減傾向にある原因としては、検討中の段階ではあるが、若い世代よりも年齢層の高い世代の方がボランティア活動等に関心が強いのではないかと、また、市

民活動などにも熱心に取り組まれているということもあるので、こうしたところが一つ影響があるかもしれないと考えている。

#### ●委員

まちづくり市民アンケート結果報告書について、3ページの設問3で、市内を4つの地域に分けたときの割合と、より細かく分けた地区で表記した円グラフとがある。4つの地域で同じ地域に属する地区は、円グラフの表記で隣にするとわかりやすいのではないかと思う。

もう1点、4、5ページなどにある棒グラフの凡例がわかりにくい。1つ1つ凡例を確認してグラフを確認する必要があり疲れる。見やすくしてもらえるとよい。

#### ●事務局

居住地域は、委員仰せの通り、円グラフに4つに分けた地域が反映できていないため、次回以降に向けて検討させていただきたい。また、棒グラフについても、凡例が見にくいところがある。市販のパソコンソフトを使用して作成しているため、上手く表現できない部分もあるが、こちらについてもわかりやすくできる方法がないか検討したい。

#### ○ 事務局から次期（第8期）光市まちづくり市民協議会について

- ・現在の第7期まちづくり市民協議会については、本日が最後の会議であり、本年度末をもって任期満了となる。委員の皆様には、貴重なお時間を拝借し、ご尽力いただいたことに改めて感謝申し上げます。
- ・夏頃を目途に、次の「第8期光市まちづくり市民協議会」の発足に向け、必要な手続をとっていく予定としている。

終了時刻 20時00分